

平成31年4月14日

統一地方選挙にあたっての談話

都民ファーストの会  
代表 荒木 千陽

都民ファーストの会にとって初めての統一地方選挙を迎えます。

一昨年の都議選では、「ふるい都議会を、あたらしく！」のスローガンのもとに都内全域から大きなご期待をいただき、50名を超える都議を選出いただきました。

その後、公用車の削減や政務活動費の用途見直しなど議会改革を進めるとともに、「子どもを受動喫煙から守る条例」を議員提案によって成立に導くなど、新しい都政への取り組みを行ってきたところです。

また、来年4月1日に罰則付きの全面施行となる都独自の受動喫煙防止条例は、多くの都民の皆様の支持を得て、都民ファーストの視点にたった政策の象徴になっております。この条例を形骸化させないためには、地域で対策を徹底する必要がある、区市町村の協力が欠かせません。しかしながら、行政を牽引する区市町村議会には、依然として「ふるい議会」の体質を背負い、小池都政改革、東京大改革の重しとなっているところもあります。

都は今年度、過去最高額の予算を計上し、異次元の待機児童対策を進めています。都民ファーストの視点に立った都予算を、一層実効性の高いものするためには、都民ファーストの会公認候補の当選は必要不可欠です。

この、統一地方選挙は、区市町村の議会を、都民ファーストの視点に立った政治に変えていくファーストステップと位置付けて闘っていきます。

全員当選で、基礎自治体においても「やっぱり都民ファースト」と言われるように、東京大改革の輪を都内全域に広げていきます。